

審査委員長講評及び審査結果報告

審査委員長を努めました計画部長の石澤でございます。

平成23年度の業務・林業技術等発表会が、多数のご参加のもと、大変有意義なものになりましたことを感謝申し上げます。

この発表会に参加するに当たり、多忙な業務の中、調査・研究、取りまとめに取り組んでいただきました発表者と協同発表者の皆様と発表までの指導を行っていただきました署長ほか署員の皆様に敬意を表します。



とりわけ若い職員の皆さんには、こういう場で発表することは、大変だったろうと思いますが、この発表により、技術力の向上やプレゼンテーションのスキルを磨く良い機会になったのではないかと思います。

また、本日、「森林における放射性物質の汚染の現状と課題」と題しまして講演を行っていただきました独立行政法人森林総合研究所の金子真司様に対して改めて感謝申し上げます。

次に、審査委員を代表しまして、講評と審査結果を発表させていただきます。

まず、審査委員会では、発表全体を通してですが、業務の大変忙しい中でも国民の森林・林業に対する多様な要請に対する取組や、本年度から本格化した森林・林業再生プランに対する取組を行っている姿勢には大変高い評価がありました。

また、我々は国民に対し、我々の行っていることなどを、分かりやすく説明していくことが求められておりますが、各発表には、それぞれ表現方法に工夫を凝らし、発表技術も高いとの評価をいただいております。

しかし、一方で既往の研究成果を活用していないことや、研究しようとした目的、それに対する結論・考察が明確でないなどの意見もありました。今後、更にデータの蓄積と考察を加えていただき、次回の発表につなげていただくことを期待いたします。

それでは、それぞれの課題につきまして、若干のコメントを申し上げた上で、最優秀賞、優秀賞を発表したいと思います。

発表課題 1番 「溪畔域の植生回復試験」

～カタクリの事例～

春植物であるカタクリを回復させるため、林床を覆っているアズマネザサを冬期に刈払い、光環境を改善することにより、回復がどの程度成されるかに取り組んだ発表でした。

この発表は、1999年から調査が続けられており、調査の方法や取りまとめなどの技術は、高く評価できるものでした。

また、一昨年の生物多様性の観点からも目的や視点は時宜を得ていました。

但し、その目的ですが、国有林野事業としてどのように確立していくのか、という視点で目的を整理することがが更に必要というご指摘もありました。

発表課題 2番 「チャレンジ 造林コストの削減」

～下刈の省力化～

平成20年の皆伐跡地に試験地を設定し、「枝条散布地拵」、「下刈の省力化」、「コンテナ苗」による低コスト造林に取り組んだ結果の発表でした。

低コスト造林は、我が国の林業の大きな課題であります。本発表のような調査研究の初期段階における発表は大変重要で、同様の試験研究を行っている職員の参考になると思います。引き続き継続調査を行っていただき、必要なデータを蓄積されて、次回にも発表していただける事を大いに期待するところであります。

また、取り組んだ試験研究の内容が多いため、試験的なデータに焦点を絞り発表を行っていただければ更に良い発表になったというご指摘もありました。

発表課題 3番 「育成単層林から育成複層林へ」

～若齢の針葉樹造林地に混生する広葉樹の育成試験～

造林地内の「不成績造林地」を育成複層林や天然林に誘導するための技術開発に関する発表でした。

本試験は、1996年から開始され長期間に及ぶ試験の成果であり、多くのデータが活用され、プレゼンにも工夫が凝らされた発表で、発表の技術は高いものでありました。

しかし、あえて申しあげれば、こちらも国有林野事業で開発した技術の普及を目的とした取組として最終的な調査の必要性と行った施業の目的を整理する必要があるという意見がありました。

発表課題 4番 「治山事業における間伐材の有効利用について」

～残存式型枠の部材開発における一考察～

治山工事における間伐材の有効利用を図るため、「谷止背面部等」に使用した間伐材の撤去を省略できるフレームと取付金具の考案を行ったことで、施工性、安全性が向上し、カーブを付けた山腹土留工への施工も可能になったという発表でした。

大変、分かりやすい説明で発表の技術は、高かったと思います。

一方、民間企業とのコラボですので、その辺の説明等も加えていただくと更に良かったというご指摘もありました。

発表課題 5番 「簡易法枠工における法枠内の緑化促進対策について

～急峻な地形に適した法枠内の吹付け工法についての考察～

崩壊地に施工した「簡易法枠内の吹付け工」の枠内の緑化を図るため種子を配合した「特殊配合モルタル」を施工することで緑化が図れたという発表でした。

大変、分かりやすい説明で発表の技術は、成果が特に分かりやすいという高い評価でした。更なる改良を図っていただき、治山技術の向上につなげていただきますようお願いします。

しかし、成果は分かりやすかったのですが、少し裏表があり、仕組みや定量的な部分の分析も行っていただきたいという意見がありました。

但し、現場に根ざした良い試験という高い評価でした。

発表課題 6番 「東日本大震災における海岸防災林の被害状況報告」 ～被災メカニズムの推察と海岸防災林の再生を考察する～

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の津波で被災した海岸防災林の大洲国有林の被害状況を丹念に調査し被災メカニズムの推察を行った発表でした。

発表は、土壌の塩分調査や現地における被災状

況から立木の流出メカニズムの推定を行うなど大変分かりやすい説明で発表の技術も高かったと思います。

このような取組は、発表会を通じて全国へ情報発信を行っていく事は大変重要な事です。今後、海岸防災林の復旧への取組が成されていくものと思いますが、引き続き調査研究と次回の発表をお願いします。

発表課題 7番 「多面的機能の調和した森林づくり」 ～多面的機能の発揮に向けた効率的な森林づくりを目指して～

森林のゾーニングを林分構造の調査結果と DEM（デジタル・エレベーション・モデル）というコンピューターソフトを用いて機能分類を行った結果の発表でした。

将来林型を想定したゾーニングは、森づくりの基本で重要なテーマです。この開発した技術を民有林の森林計画などでも活用できるように工夫や更なる内容の充実に期待します。

また、新しい視点も加えると更に評価は高くなるというご指摘がありました。

発表課題 8番 「モリアゲヨウ2011国際森林年！」 ～様々な手法で国際森林年を効果的にPRしました～

昨年は、国際森林年でありました。この国際森林年をPRするために横断幕やチラシを作成して地元のイベントなどで配布したり、国際森林年に関連するネイチャークラフト教室などを開催し、PRを行ったという発表でした。

しかし、昨年は、国際森林年に定められた年ではありましたが、東日本大震災の影響で多くのイベントが中止、縮小される中で各職員が、それぞれアイデアを出して国際森林年を盛り上げていただいたご努力には、敬意を表しますとともに、これからも継続した活動を期待いたします。

また、このような取組は、成果を示すことが難しいのですが、大変分かりやすい

説明で発表の技術は高かったと思います。

ただ、地域住民の方との意見交換によるアンケート調査をもう少し深め、定量的な分析があれば更に良い発表になったというご指摘がありました。

発表課題 9 番 「寛永年間に植栽された諏訪森アカマツ林を解析する ～富士山世界文化遺産の登録に向けて～

保護林でもある諏訪森（すわのもり）国有林のアカマツ林を、地域の方々と連携しながら保全対策に取り組んだ内容で、アカマツ林を継続的に保全・管理するための資料として樹幹解析、土壌調査、薬効調査などの成果を利用するという着眼点の大変おもしろい発表でした。

また、内容が専門技術に直結する内容であり、科学的な評価を行っていることも高く評価されました。

しかし、内容が多く多くの事に取り組み過ぎているので、もう少し絞って発表していただければ更に良い発表になったという評価がありました。

発表課題 10 番 「富士山国有林における未利用材の活用について」 ～ウラジロモミシステム販売等の一考察～

今まで利用することが出来なかった富士山国有林のウラジロモミの有効活用を図るためシステム販売に取り組んだ内容の発表でした。

署の販売担当が木材市場、合板、製紙企業と打ち合わせを行う中で得た情報を販売に結びつけようとする姿勢は高く評価されます。また、大変分かりやすい説明で発表の技術は高かったと思います。

「森林・林業再生プラン」に基づく発表でタイムリーな話題でもあり、国有林野事業として大変意味のある発表でした。

なお、コスト分析と造林や施業についても分析を行っていただき今後の研究に繋げていただく事に期待します。

発表課題 11 番 「日本型フォレスター育成への取組」 ～准フォレスター研修を振り返って～

准フォレスター研修は、本年度から開始された研修で、研修の効果と課題などを分析したこのような発表は、これから研修を受講しようとする職員への情報発信として大変意義のあることだと思います。

このような取り組みの発表は、成果を示すことが大変難しいのですが、大変わかりやすい説明で発表の技術は、高かったと思います。

今後とも森林林業の再生に向けた取り組みに期待します。

発表課題 12 番 「水源林造成事業におけるクマ剥ぎ防止対策について」 ～栃木県における防止対策方法と観察結果～

この発表会に外部から参加していただき大変ありがとうございました。まずは、

一言御礼申し上げます。

発表の内容は、我々、国有林の職員をはじめ、林業関係者に大変役立つ貴重なものでした。

また、発表のクマ剥ぎ被害は、我が国林業にとって大変重要な問題です。

防止対策として実施した「ポリプロピレン製ネット巻」などの対策に対してしっかりとした経過観察が成されており、取りまとめもしっかり成されている発表でした。

この発表を機に、国有林との連携などに繋がることを大いに期待いたします。

以上、各課題のコメントでした。今後の業務改善や研究の参考にしていただければ幸いです。

続きまして、審査結果を発表させていただきます。

賞については、最優秀賞1点、優秀賞4点の計5点を選考いたしました。

今回発表された課題は、いずれも甲乙付けがたく、審査委員の意見も分かれましたが、慎重に審査した結果、次のように決定させていただきました。

なお、入賞されました課題は、林野庁で開催されます「国有林野事業業務研究発表会」へ4課題、日本森林技術協会が開催する「森林技術コンテスト」に1課題推薦させていただきます。

それでは、最初に**優秀賞の4点**を発表します。

1 課題目は、発表課題 6 番 磐城森林管理署 湯本 仁さん
森 誠司さん

が発表されました「東日本大震災における海岸防災林の被害状況報告」です。

2 課題目は、発表課題 8 番 上越森林管理署 江口 隆祥さん
丸山 良太さん

が発表されました「モリアゲヨウ2011国際森林年」です。

3 課題目は、発表課題 9 番 山梨森林管理事務所 平野 辰典さんが発表されました「寛永年間に植栽された諏訪の森アカマツ林を解析する」です。

4 課題目は、発表課題 10 番 静岡森林管理署 松熊 邦友さんが発表されました「富士山区有林における未利用材の活用について」です。

最後に最優秀賞を発表します。

発表課題 4 番 山梨森林管理事務所 見城 孝俊さん
森瀧 純一さん

が発表されました「治山事業における間伐材の有効利用について」です。

受賞されました皆様おめでとうございます。

お陰様をもちまして、本年度の発表会が盛会のうちに無事終了いたしましたことを御礼申し上げ、講評及び審査結果報告といたします。

平成24年1月27日

関東森林管理局 計画部長 石澤 尚史